

Vericut の導入により、 業務効率を改善された 事例をご紹介します。

多くの企業がVericutを選び、加工効率を向上しています。

CNCシミュレーションソフトウェア Vericutは、実際の加工前に、PC上で機械加工シミュレーションを行い、機械部品・治具・工具の破損、またはCNCマシンの事故につながるミス無くすることができます。また、ミスの排除だけで

なく、最適化モジュールによってサイクルタイムを短縮し、加工効率を改善できます。さらに、Vericutは切削モデルを利用した正確な測定や、インスペクション（検査シートの作成）など、多くの便利な機能も提供します。



単純ミスによって材料を無駄にしたり、工具やCNCマシンまでも損傷してしまう恐れがあります。

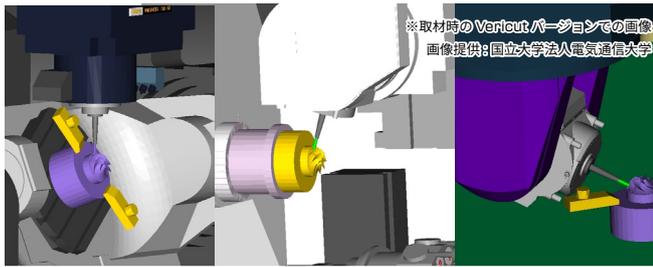
また、納期に間に合わなくなるかも知れません...

もし、加工現場でのトラブルを未然に防ぎたい、
と真剣にお考えなら、Vericutの導入をご検討ください!

CGTechについて

Vericutへの投資は、単にソフトウェアを購入するということだけではありません。この業界で最も先進的で発展性のある技術パートナーとチームを組むということなのです。

- » Vericutのシミュレーション技術を含む我々の製品は、すべて社内開発されています。そのため、開発者による迅速な変更や特別なカスタマイズを可能にしています。
- » 営業やテクニカルサポートなど、CGTech社員の定着率は非常に高く、世界中に代理店があります。これにより、お客様は経験豊富な担当者との長期的なビジネス関係を築けます。
- » CGTechは1988年に設立され、安定した運営を継続しています。ほとんどの国に、Vericutをよく知る多くのユーザーがいます。
- » CGTechは、製造業が直面する多くの課題を見してきました。CGTechは、常に世界中で新しい製造方法や技術に触れているため、絶えず変化している産業界のニーズに素早く対応できます。
- » 世界中の多くの主要な会社から認定されたベンダーとして、CGTechは「ものづくり」において信頼できるパートナーであり続けます。



Vericut はコミュニケーションツール

Vericut 導入のきっかけは？

日本でアカデミック版が市場投入される、と聞き2年前に Vericut の導入を決めました。現在は、私が担当する大学院の生産システム講義や、研究室での利用を中心に、相当数のライセンスを使用しています。

導入後、学生さんからの反響は？

これまで体験した学生たちからの評判は、本当に良いですね。実機がなくても、機械加工の一端を、Vericut を通じて体験できる、とても貴重な機会となっています。学生にとっても、機械加工を手軽にゲーム感覚で体験できるし、とても楽しそう。学生を預かる身としては、Vericut を通じて、機械加工を「安全」に「楽しく」体験させられる点は、最大の魅力です。研究室に所属する学生の多くも、Vericut で研究活動の検証を行っています。正直かなり重宝しているソフトです。

Vericut の魅力はどこですか？

操作性も含め、とにかく「早い」ことでしょうか。動きが本当にスムーズですね。実際に使用する学生たちからは「オペレーション画面で、工具や工作機械、ワークの定義を一ツリー上で出来るから、変更把握も容易。使い勝手が良い」とか「各種工作機械のシミュレーションが経験できるのは嬉しい」、「直感的に使えるのが良い」といった声も聞いています。

Vericut って、どんなソフトですか？

文房具と同じで、必要不可欠なツールですね。それに、物事を進めるうえでの「コミュニケーションツール」の



国立大学法人電気通信大学

回答者
大学院 知能機械工学専攻
准教授 森重 功一 氏



URL
<http://www.uec.ac.jp/>

Profile

1993年同大学に入学、同大学院を経て、98年に博士号(工学)を取得。卒業後も引き続き大学に在籍し、各種研究活動に従事してきた。2007年より准教授。主なテーマは、CAD/CAMや生産システム、知能化工作機械など。精密工学会や日本機械学会、型技術協会では理事を務める。業界では、5軸加工やソフトウェア関連の第一人者としてお馴染み。

位置づけも強いと思います。加工に関して、言葉で人に伝えるのはなかなか難しいです。例えば「パスが滑らか」と言っても、実際に目で見て確認してみないとわかりませんよね。我々の研究室内では、学生間で成果を伝え合うツールとしても活用できています。これは、企業間でも、同様の位置づけで有効活用できるはずですよ。

Vericut に今後期待したいことは？

Vericut のユーザー同士がフランクに、かつ活発に議論、情報交換できる場があると良いと思います。「エブリタイム、ユーザー会」みたいなイメージでしょうか。米国では実施されているようですが、日本でもぜひ広がって欲しいです。実際、知らない機能や便利な使い方がまだまだ、たくさんあるはず。Vericut を深く知れば知るほど、自分たちの技術力向上に間違いなくつながっていくはずですよ。ぜひそんな場があれば参加したいですね。

▶ 研究所紹介

現在の研究室には、2013年1月の時点で10名(修士課程5名、卒研5名)の学生が在籍し、製造系ソフトウェアの開発を中心に、コンピュータを利用した知的生産システムの開発に関する研究を行っています「実際に利用される可能性のない研究は、工学として無意味」という考えをモットーとし、開発した技術の実用化に向けて国内の機械加工メーカーやCAMベンダーなどとも積極的に交流しています。

